

Ⅱ 地域連携アクティブスクールの取組状況

地域連携アクティブスクールとしての取組状況を、「学び直し」「実践的なキャリア教育」「地域との連携」「独自の入学選抜」の4つの観点から、泉高校、天羽高校の両校にまとめていただき、併せて基礎データを整理しました。

1 学び直し（学ぶ意欲に応える学習指導）

(1) 泉高等学校

ア 学校設定教科「ベーシック」の中の学校設定科目「ベーシックⅠ」

学び直しは、学校設定科目「ベーシックⅠ」を軸として実施しています。この科目は、1年生を対象として週3時間（3単位）の授業として行い、国語、数学、英語の3教科を各1時間ずつ充当しています。

学習に臨む態度と学習内容の理解度には相関関係があると考えられることから、実施に当たっては、2人によるチームティーチングで行い、主担当が教科指導、副担当が「学ぶ姿勢」の指導を担当しています。

「ベーシックⅠ」の学習については、生徒から肯定的な評価があるとともに、科目毎に実施している到達度テストにおいて得点率の上昇がみられるなど、実施による成果が確認されています。

イ 少人数授業と習熟度別授業の実施

高校での学習内容の定着を図るため、第1学年及び第2学年では、国語、英語、数学を始め、1クラス20人程度の少人数授業を実施しています。特に、数学に関しては、習熟度別授業も併せて実施しています。

ウ 高大連携

近隣の東京情報大学との連携により、教職課程を履修している学生を学習サポートボランティアとして派遣していただいています。「ベーシックⅠ」の指導にあたり教員のチームティーチングを行い、生徒の質問に答えるなどきめ細かい指導をしています。

(2) 天羽高等学校

ア 学校設定教科「学び直し」の中の学校設定科目「ステップアップ」

学び直しは、学校設定科目「ステップアップ」を軸として実施しています。この科目は、全校一斉のドリル形式の授業（自学自習）として、毎日午後の授業の開始前20分間に実施し、国語、数学、英語、時事問題を学習しています。

なお、よりきめ細かい指導を行うため、3名の教員によるチームティーチング（木曜日は、学生サポートボランティアも参加）で実施しています。

イ 少人数授業や習熟度別授業、チームティーチングの実施

第1学年は、一人一人の生徒に目を配り、細やかな指導を実践するため、全ての授業を1クラス20人程度（科目によっては5～6人）の少人数あるいはチームティーチングで実施しています。第2学年では、数学、英語で少人数授業を実施しています。

また、学力差の大きい数学、英語では習熟度別授業を実施し、国語、家庭、情報、商業はチームティーチングで授業を実施しています。

ウ 高大連携

近隣の清和大学との連携により、教職を目指す学生を週1日（毎週木曜日）学習サポートボランティアとして派遣していただき、学び直しの科目である「ステップアップ」での学習支援や、通常授業の補助などをお願いしています。

学習サポートボランティアを加えた指導体制を構築することで、生徒へのきめ細かい指導を可能とするとともに、将来教職を希望する大学生にとっても学校現場を知る貴重な経験となっています。

2 実践的なキャリア教育

(1) 泉高等学校

ア 「産業社会と人間」の導入

学校設定教科「産業社会と人間」を1学年と3学年で各1単位ずつ分割履修という形で導入し、体系的にキャリア教育プログラムを実施しています。

第1学年では、学期毎にテーマを設け、ジョブカフェちば、ちば地域若者サポートステーション、千葉県生涯学習センター、NPO法人企業教育研究会、公益社団法人誕生学協会などの外部機関との連携により、特別授業を展開しています。

なお、設定テーマは、1学期が「対人コミュニケーション能力の涵養」、2学期は「就業意識の育成」、3学期は「良き家庭人としての資質の涵養」としています。

イ インターンシップの拡充

望ましい勤労観や職業観を育成するためには、インターンシップが効果的であるという報告に基づいて、従来から希望者を対象として実施してきたインターンシップを拡充して実施しています。

なお、実施に際しては、本校に配置されているキャリア教育支援コーディネーターの協力の下、ちば地域若者サポートステーション等外部機関の協力を得ながら、事前・事後指導を含めて丁寧に行っています。

(2) 天羽高等学校

ア 「総合的な学習の時間」の活用

第1学年において、「総合的な学習の時間」を2単位設定し、社会との関わりを通して、自己の在り方・生き方を学習しています。

イ コミュニケーション能力育成プログラム

コミュニケーション能力の育成を目指して、外部講師（子どもと親のサポートセンター所員等）による出前授業を年間15回実施しています。

ウ インターンシップ

第2学年の生徒全員を対象として、地域事業所において3日間のインターンシップ（就業体験）を実施しています。

エ 外部教育機関講師による進路講話

ジョブカフェや地域若者サポートステーションなど専門機関から外部講師を派遣していただき、進路指導を実施しています。

オ ボランティア活動の推進

地元住民との交流を通じ、生徒のコミュニケーション能力を育むために、ボランティア活動の機会（市商工会と連携しての伝統行事「湊川灯籠流し」の企画運営等）を多数設定しています。

3 地域との連携

(1) 泉高等学校

ア 広報活動の充実（ホームページの定期的な更新、小中学校訪問、地域社会への情報発信）
イ 東京情報大学学生による学習サポートボランティア（学び直し）及び同大学からの教育実習の受け入れ

ウ 地元企業でのインターンシップ

エ 農業体験の実施（2学年）

学校に隣接する畑を借用して、他の県立農業高校と連携し、地元農家からの支援や、地元JA等による指導を受けながら、農業体験（作物作り）を実施しています。

オ 推進協議会の設置

学校外の意見を広く取り入れるため、地域関係者や学識経験者等による「推進協議会」を設置しています。

なお、協議会は、地元商業施設管理事務所長、地元在住元中学校長、NPO法人事務局長、地元スポーツ施設代表取締役、千葉市青少年サポートセンター所長、地元企業代表取締役、ちば地域若者サポートステーション統括コーディネーター、保護者会副会長、同窓会長、学識経験者等によって構成しています。

(2) 天羽高等学校

ア 農業体験

千葉県君津農業事務所、農業まるごと体験塾「相川風と緑の里」の協力を得て、落花生、サツマイモ、枝豆（小糸在来）の栽培に取り組み、命の大切さ、収穫の喜び、生産者への感謝の心などを体感することができました。また、収穫の一部を近隣住民に生徒が配付し喜ばれました。

イ 天高防災デー（大学と連携した地域防災教育）

地域防災をテーマに地域の方々と共に考える時間を作ります。首都大学東京の指導・協力を得て、モバイル教材を駆使した防災の授業を展開します。地域関係者に授業を公開しながら、生徒は地理的条件を鑑み防災意識の向上を図ります。

ウ 地域に密着した部活動プログラム

- ・吹奏楽、合唱部の出前演奏会
- ・サッカー部の地元小学生クラブや中学生への指導
- ・野球部の地域美化ボランティア
- ・バレーボール部の通学路清掃、学童ボランティア
- ・相撲部の実技指導

エ 地域行事の企画、協力、参加

- ・芸術展「もみじまつり」の小中高連携
- ・湊川灯籠流し
- ・さぬき夏祭り

オ 地域教育力の活用

- ・太巻き寿司、米粉料理、魚料理講習会（地元料理サークル、漁業協同組合から講師を招いて、生徒向け講習会を開催）
- ・伝統遊び教室（地元工務店の社長を講師に招いて、生徒向け竹馬作り教室を開催）
- ・絵本読み聞かせ講習会（富津市読み聞かせサークルから講師を招いて、授業支援実施）

カ 本校の教育力の提供

- ・高宕山自然動物園の装飾活動
- ・湊中央保育所の装飾活動
- ・地域ボランティア活動（通学路清掃、湊海岸清掃）
- ・小中高連携（キッズ料理教室の開催、合同津波避難訓練、出前授業 等）

4 独自の入学者選抜

地域連携アクティブスクールでは、「中学校で能力を発揮できなくても、高校では頑張ろうとする意欲を持った生徒を自立した社会人として育てる」という趣旨を踏まえ、人間性や学ぶ意欲を重視する独自の入学者選抜を実施しています。

具体的には、以下のとおりです。

(1) 泉高等学校

一期選抜：1日目は国数英3教科の学力検査と作文、2日目は面接を実施

二期選抜：国数英3教科の学校独自問題と面接を実施

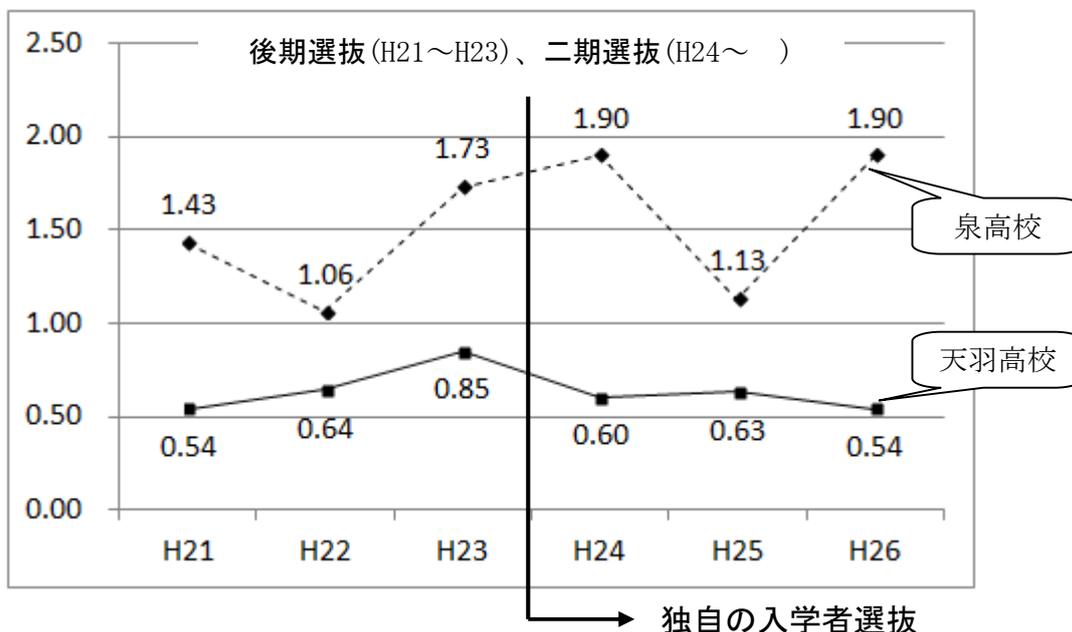
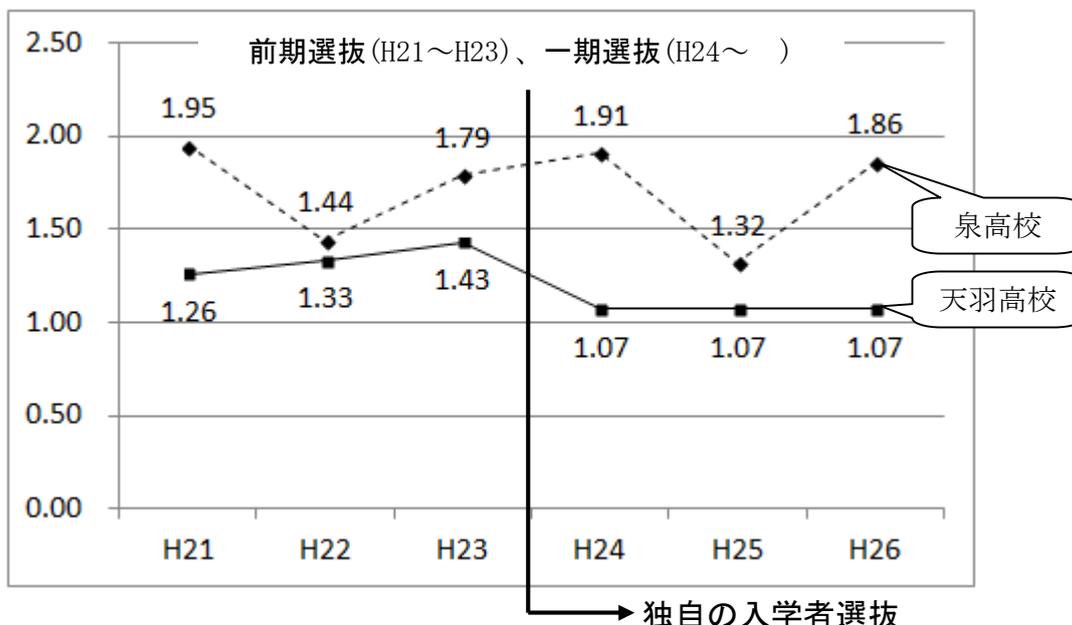
(2) 天羽高等学校

一期選抜：1日目は国数英3教科の学力検査と作文、2日目は面接と自己表現を実施

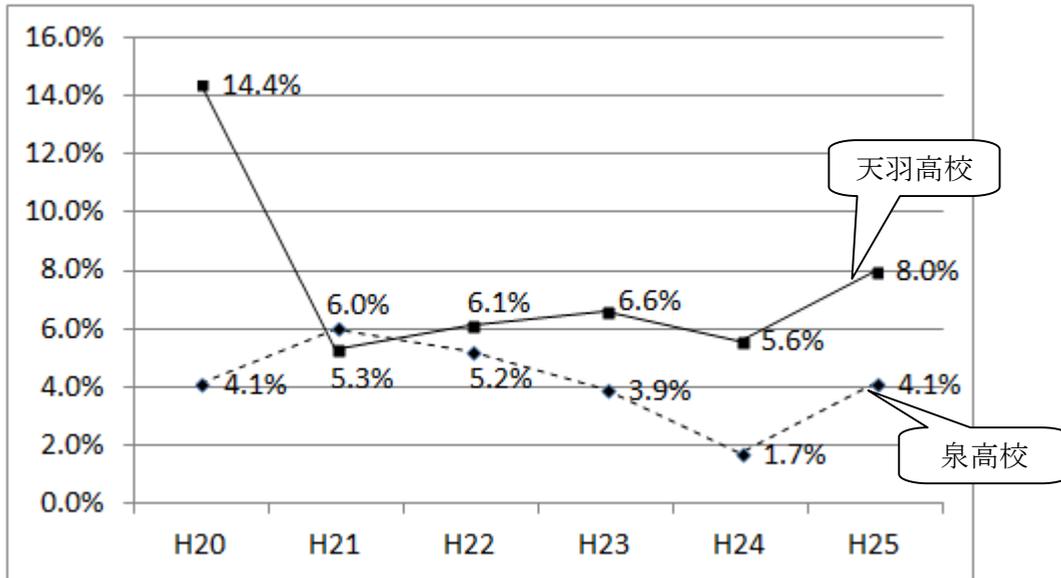
二期選抜：口頭試問と面接を実施

5 基礎データ

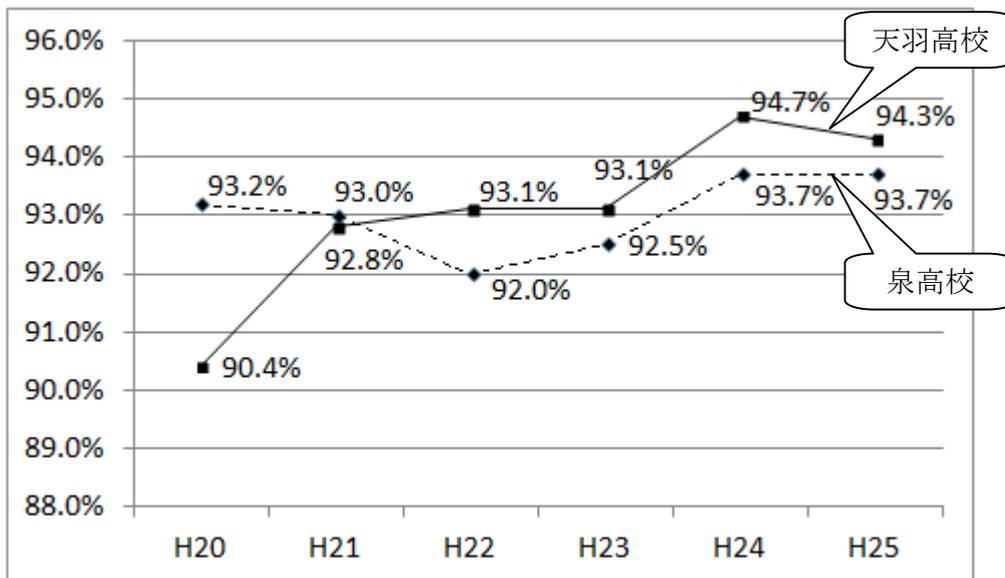
(1) 志願倍率の推移



(2) 中退率の推移



(3) 出席率の推移



(4) 進路決定率の推移

